

扶桑國  
第一產

養蠶秘錄

中

庫	文	閣	內
八三函	八九		和
七架	三冊	號	書
		類	

(二和)

內閣文庫	
番號	和 8989
冊數	3 (2)
函號	183 342

養蠶

五回入



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



養蠶秘録中巻

明治十二年購求

目録

蚕神糸此事

蚕生程出糸対公得の事

最初摠と云蚕掃落は仁方此事

糸の糸芽と云蚕掃落は仕方此事

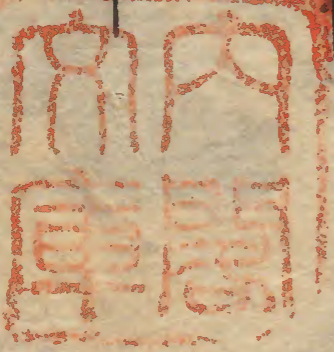
蚕小丈小出糸ざらひの事

公得遠糸く糸不他と云る事

蚕獅子此居起子入道の事

蚕架立根糸蚕風と嫌ふ事

家内陽氣加減の事





古今集  
 くらりのあ  
 あやこ  
 くらり  
 くらり  
 くらり  
 くらり  
 くらり

鷹の辰起子入さけ半  
 龍此辰起子入さけ半  
 霧氣成凌さけ半  
 霖雨と志たさけ半  
 暑氣を凌ださけ半  
 庭乃辰起子入さけ半  
 法園ふて齒地らんふさけ半  
 練取松口傳れ半  
 春の香麝并病見松の半



と深く慮り作らざるその人なり

と深く慮り作らざるその人なり

旧事本記云

甲子日家内と凍先成妻の方小蚕神とあり葉の枝と式本葉の糸に

繭餅とのせ供ト 繭の餅を煮て 神酒と献トてあり

史天宦書云

正月上申日東方より風吹けし其年蚕よりせり

續齊諧記云

唐古小張成より人武里の婦人象れ東南小蚕室成ると見え教下云

正月十五日白粥を供ト蚕神と奠らば蚕の繁榮常に百倍長しと

婦人教のぶとくすふとくす利とけり

崔寔云

三月清明の前小家内祓除し社清め四方の疔と寒を窓とけり

蚕ふ用白布法道具とあり用之を令りせり

竟魚河圖云

蚕の沙成家の戌亥の方小埋れ其家の蚕必繁昌はとあり

東方朔占書云

正月元日風吹ば天氣晴むは至年蚕よりとあり



蚕 左初取の図

蚕生れぬ時公海の事

春小初り至年先物小せんと思ふ

物を彼岸中日花後小取物一氣成

箱にねねふとて氣通をぬる所へ物

去る一是も其去地のを暖むと速速

の加減ある一物比上下へ糸とほある

一日初り小上下を初物一其由へは

二階裏など上下わづなれども温冷

の違ひありて種の上よりたる所へあり

まきと蚕早く物なり鬼角一箱より

蚕と一夜小と物不不加減とあり

了行新なり何是此中一少也八十八新若後少は蚕生れ物なりけり  
 せんと七日の照ふ所ふ蚕を或は懐中小入又之夜忌蒲團小はくみあひ  
 火の近所ふ蚕は蚕小移依暖先せ理小おさんとすそのまゝ一玉性自然小  
 後を移す移小皆青とけさ蚕おくおうらば蚕の九府日此暖なる時を見合を  
 かる物おさるつと或は皮籠又骨柳りだ根の物小入少一火氣のひ  
 暖る所へ上とく移し一走り一日二式三夜つみし移るなり  
 火氣を入又これごとくけみよと蚕一け時火氣又觸ると熱し一  
 毎天けは家内小火と煙さか一湯ふまど一薪と松葉の類し一魚  
 匂ひある木焼なりは又近所へく煙草香ひうは紅紙のりも魚一蚕を  
 手掛る後小は洗法淨小まど一法道具と蚕物糸小掃除して煙をべし



蚕初搥と以て蚕揚落仕仕の半  
 蚕初めより桑葉とりて書ふもの小  
 物れとも書蚕物時長辛固せ糸  
 葉の芽物る年あり其時と搥ふく  
 桑は花を取蚕小食と所あり元糸  
 搥ると糸糸の交と種小なるとり  
 蚕の食する糸の何と花ととるし  
 蚕初蚕揚落仕仕と種はは波葉を  
 のおぼなく種燥とたるとよめて搥か  
 卵し一と種篩し又糞せとみを  
 去り種を扱の蚕小搥五六合半周る

丸  
 いた  
 まつ  
 びま  
 養太



美香の  
いと  
七保

生れ  
若く  
産む

蚕種紙のまづ成る頃  
 或人少くお紙のうらうら  
 若をそりて志のふほこくせ  
 だるま意の中へ蚕成かきと下  
 或る豆付のふをまき出と掃落  
 さい其日の夕方小式表出と掃  
 だるま日小生れ蚕成型  
 目小持越て掃付と其蚕何やと  
 子煉をけうとまふと産の  
 起り変物と心とと兔角蚕  
 と其日切小掃おてまふとべ



撮  
撮  
撮

まづ一初ま枝の蚕守方と物  
 と見へ撮る撮三合程用さし  
 生れ蚕多おふん合志の種と  
 りて用ささへ一と知の節  
 とまき出に方目とつひとりも  
 解の園と初まは九付と彼  
 解一蚕と取物一何の意とて  
 も産お早摘のよりぬと能  
 種ふん合せふりて其ふ紙とま  
 波撮撮又の切糸とてと意を  
 産おぬり産其ふふれとふ

又蚕成羽あつくとけい出の蚕少く痛む其は少く種紙小  
取捨を十箇蚕もたかす所不羽を慈へ掃入を素紙加減能ゆりけ  
緩くゆ八方へ度あ為くまへは時程を度の蚕凡三尺に方ぐい小  
むらむた振小落くまへ慈を何あも扱多小ねを蚕也蚕下を合ぬ  
振小垂一初日根たば一日小式三度程喰せ素紙切棄る度一日小に  
又夜喰まへ是も時毎あく少くは加減あへまへり少く暖か  
所へ上テ垂魚一柳の立所も三所程不立垂冷し凡日と暖まるあ小垂  
温氣強二日と少く冷し三日は垂せればひをなす加減まへ素の  
あふあ六一時とあくあを喰まへ素紙と蚕小見合せ後程目のあ  
こと羽也程團とあくあくの仕はある各其宜し凡小はよへまへり  
一日小式なぐはの神さ築あく蚕下と切度へ是獅子前を合ぬ

一巻中ノ五

極秘申はく蚕の居りと乾一かびあまぶらたれば仕はる毎日素と  
あふふあまは幾とりて蚕の原とある落さうと砥り素其後素とひ  
まれば振小ゆりけ喰まへ一も毎天徳と蚕下ああり方れば蚕のへ小  
あはれすりぬる度が一宛とくくとまへり垂て垂素紙喰まへ是も  
蚕下と燥さんぐた先より蚕少く四日の間を暖の加減別して大切なり是より  
七日の所子へあはれを後小あくは病とあはれ大切まへたり又切羽の時  
小風をへ一向素紙喰まへ又蚕消死まへはむかへ一又暖まるも無  
兼て八方へ風ぬこれ宿紙振まへ時戸の扉身自由小一付く雲のかういと見  
加減まへを素紙と大方向へ合ぬお強そりまへりて蚕小病出来性悪く  
かへりまへはあはれ後小あり候小悪くかり一振小あへりまへり  
人あし及の不他とあふりうと知れへ陽氣加減とあへりまへり



終く考へ柳殺も多く立並拔りたり大切小取捨小なり柳本柳竹も  
生後ち悪く前方より挿之乾く一葉一

葉の若芽と之のく蚕掃麻を仕法の本

年ふよりそ葉芽出らるる不蚕幼少ありね抜りて葉の死と食をせ  
只ども葉の葉有らば早く糸と食をべし葉葉とあへし蚕を一匹  
生立し中一又植あく久しくまらひし蚕を少し糸をよみて性悪く  
生立もあへし一初初と糸の筋取取小新し糸糸に方目位の解を  
ふらひ糸のでく種を殺の蚕小葉葉の切捨六合程用えし生立る  
蚕此之小終程小思合せふり懸べし物時を生れたるや糸を蚕葉糸  
にそのあがれりりてとゆれ糸を少くまらふとよみ取前のく懸ふ  
まらぬとふら其の小紙と糸を不取り入るは時種と殺の蚕と凡

三尺四方位小糸のくく爲く散りし一葉一又紙小取付る蚕は是  
も前此くく裏より葉をく窓の中へたれ糸をく一窓を殺多く考ふ  
扇一蚕をたれ糸をくまらぬ中ふと一蚕の若悪く出く五六日  
幼弱小あへし一葉と食をくふしり有り糸又い蚕の厚弱在家内陽氣穢  
悪く糸何れも少く抜け吐みおれをたらしまら蚕不挿と女性悪  
くならし一程陽氣と陰は陽國をく遠ひあり陰國を少く暖氣と陰  
陽國を少く冷しり糸をく毎日葉食と糸に糸を築あく蚕をけり  
さ糸小取り糸をく其の葉を食ひる一五天の日い糸をたれ取上り糸を  
雨湿と露くべし一初蚕幼く二日目うらひ卵をけしと糸をく一日小  
式三度つ糸をく築と糸をて蚕下と切蚕の葉を所と爲れ取へと  
むらるれ糸をくして糸をく一蚕を生れくは又日め糸をく此卵と糸

蚕下して小蚕瓜をうい取能燻る外の外の思ふなりぬるをうい其入不  
 紙を敷蚕を并べ並列のどりして六七日までの蚕が白多ふとせよの  
 時は傳阿るの糸糸の秋早摘のまりぬるを蚕種を扱小凡の六俵宛小用  
 糸一蚕生ゆ糸彼まりぬるとかの今あくるぬる小種を是と拾算の  
 ぼろとの一の下へりたる所を又のいのうのせとの一の埃と去を申のふのなり  
 一兩を取並或のとのりたれの茶糸小蚕の居尻取入のと思のうのどのお日のの秋業  
 喰をとの扱を又の彼のぬるのすのりぬると蚕をれをふをくを中をむをけを能を福を小  
 為をくをゆをりをけをてを虫を小を業をの切を拾を汲をみをりをけを加を減を能を喰をまを入を一を新をれをとをく  
 まり時と蚕ぬるを嫌をいを上をへぬをあを出を業を遠をくをふをなりを但を解をりを厚をくをぬをるをを  
 ふをれをどを蚕をぬをりをれを下をふをくをとを居をくを上をへ物をだを加を減をありを人を其を日をの物を業をとを蚕  
 せをがを一をらをとを玉を居を尻を取をもをべを一を團をのをかくを思をとをかを一を似を布を思をのをすをとをり



蚕を下する時の  
 居尻取り  
 の時  
 の図

羽を少く蚕をとはくる外にたらふ  
 思入居尻一は居尻之の時是と  
 思の中小居る一蚕は今夜  
 縁通小並今と縁通小居一は  
 此夜中魚小並一は是と思乃  
 中空縁と併なるも名と腹をん  
 遠ひある故小蚕を一扱不扱んが  
 物好のどくを入居と申るをりを  
 まりぬるをひ加減能まれをとり  
 小ふく奇妙の仕方は居居居  
 の時堪と喰をたらば三夜喰せ

て後居尾を替てより又素糸ならば式に食て後居う取替てより一終  
那子に居起より紙の記まで居尾を替り度毎にすうぬはく度一をい加減  
糸のどしどしけの通りて居替をれを極子く蚕糸を清く洗ひ洗ひ  
唯蚕糸を夜に耐より乾かすまでの糸をすありのせ初て一は時湯を沸か  
火をがいの焼へ一煮り火を焼加減を蚕糸を煮るとり又毒も成る  
又炭火を空うしは徳少も春蚕の煙で飼へ夏蚕を風で飼へとふ糸あり  
物れも火を信あるものほく其心ゆる人必焼極くは免角湯氣を  
前よりどしどし常小我身給りて終りまへ一戸の透は紙を張り  
透間の風を障りて甚多をいなり窓は開き中を加減して  
蚕糸七八日より十の六日と蚕母と蚕の傍を去り紙子入まれば其糸は  
向う糸半氣と付てその糸を要又氣の強ぬ糸を半とて大功也

蚕小大小出来ざるの事

蚕幼を思ふに時掃房一程を殺分三尺四方の積合せは端の尻とを  
了くま思ふ見ゆる程よくする幸性よくなる程よく好む一切の他物と  
もよく極むばふと以て実入も悪くかみ一五成人と蚕小極扶持とある  
かく一日一夜漸式に程糸成る之は右大方に糸をわく糸は糸を極  
糸をむく育七珠界なる蚕の性ありく大小不相ふる之飼方の信と  
光中法をりて養育せば中仕換へ育る蚕より元より蚕の情と信と  
霊表より育るの中と遠の其席と去り居く糸も我糸小糸を喰  
糸をざるを彼方は方糸を早く育り中糸をわくは種と考法  
糸を付糸は糸をわくは糸をわくは糸をわくは糸をわくは糸をわくは  
も育るを又大根成蚕も育る一彼蚕飼ふる時と遠若成蚕弱と

蚕の上小窓を業と喰ふ下小窓れ一弱を蚕を業喰ふ事あるは  
志のせしとよ小窓り一蚕外へ切と付頭を低く居る上なる蚕子分  
業喰ふ下小窓り一以喰ふを上なる蚕割外へ切一付小下なる蚕業  
と尋れども其子とならざる蚕喰ふ一操と成ゆ一葉は皆忘れ彼を  
肉射別色く弱を蚕と喰ふ及ぶなり是不掛性ありくざる根本に後  
六つあるべし一むて大切の秘事なり終く知れり

○按ざる小蚕業と人の運ふよりて若函ありとて事終るなり一もあり  
ども平竟と積の苦難と側方の功拙と小あり又年の無り氣候あり  
豊函の遠ひあれども是も側方ありて晴劣あり一唯六耕作の運  
日一豊年と運る人も運る人も其小上化一又函年一統不  
悪化すると一ども其中小入次牙少て冥への差少は別あり知れり

天小ぢ一毛隔なく人か比差ひある事終然とけ理とある人  
根小佛祓小形を好むと積えと根と隣の間とかが人と好むと杯  
さる人あり佛祓と人の形の小よて加積一ゆ一ませども其身側方小  
殊うかねむゆいせん幾度も功若の人小尋ね側方殊異なえむた  
世間一統函化の年かりともお意の化とまを半以け

心得遠少く年々蚕不化ある事

或園小て養蚕とまをわふ物とちり其所の地頭より管内の百姓小素と化せ  
蚕と飼むむ物れどもは道不案内なれを東園より一書とけ其書小備して  
養蚕と成小打續と七八年も不化一莫ちの換失有一ふ五人大久小後  
芳とて必定は土地と蚕小遇さる土地なり一とやぐて素の樹とも切拂と  
に爰小そ人の害ありて其友と仰ふ郷人の云近年地頭より令せられて蚕

羽ふと之も元より不案内の半なれを東國より一書と求め是と云ふ其  
書小云むり一園東はく或人蚕の飼方をたり一見むと書の以種二枚と曰ふ  
出しを授る家此二階温むる所ありて飼ひを授るや一暖むる納戸あり  
飼ひ今を授る所後のは一尺前ありて飼ひ試す二階の温むる所ありて  
一蚕の飼く見事小生五匹の蚕より二三日おく或又産後のは一と云ふ  
蚕も種く見事小生五匹の蚕より二三日おく或又産後のは一と云ふ  
書ひ一蚕の甚不採むく日殺も先の蚕より七八日も後進何と云ふ何と  
採不見く一が彼二階の温むる所不ぼく書育せり一蚕を産の起より宿  
けを俄不ありたり後之向不作せり又納戸ありて育り一蚕を不採む  
たり是亦と云ふ被改一と云ふ蚕ありて書ひ一蚕の後産後く生能  
見事小採ひ不晴上飛せり物を蚕の飼く一と云ふ培るるやいかに一後此人必

新ふてふれを育り一取教のてく戸と居れは一と云ふ書育せり一不ひこ  
馬子の内不大半消去せ又始一蚕も性悪くたりは半始てより取来一  
も上飛する半なく過分此採去せり一たり不産は所と蚕不産せぬと地中  
免ゆれをその子蚕業とお止むべり一と云ふ密圖てり一採小其能と云ふぬ  
かふ採の業一もむり其採一をせり一に子細あり元來園東の蚕  
業と勤事半最久一不家居たりと云ふ採一意の完男自中ふ一と風  
出入專陽氣の満る採不送をたりと云ふありて不ひく冷く一と云ふ飼一  
や書一物るん東玉と云ふ冷くたといひ給事物も云ふ一と云ふ陽氣  
登り一を暖の加減を其家他不有べり一物と云ふ冷く一と云ふをより一  
心ゆり一蚕を馬子の中不産と云ふ不培死するなり強り一蚕の性悪くぬ  
は取らん採て中のみいかに一温むる所好まの老暖まかねを採密のけと東盛ん

守園  
里依小採素  
の秘幸瓜  
に授ま



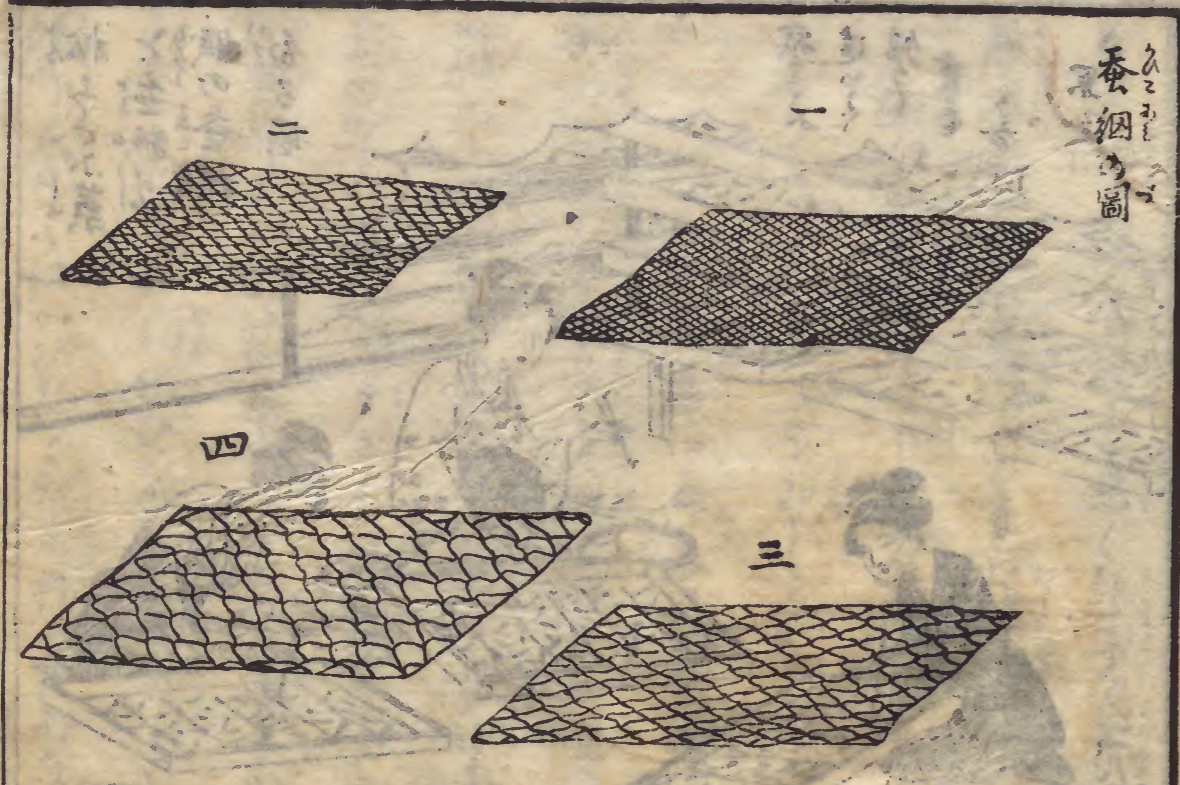
おりのそ飛鳥の蚕も是ふあり  
 友小又ツの秘幸あり温氣と好む  
 やそむらぐしはめさ氣の養ふら  
 むて魚一只何とかく長果はく  
 ひとりやそふ種不陽氣とそ  
 肝要なり聖徳をふの教ありあり  
 蚕の父母の赤子とまひふてそ  
 えり蚕の異國も育て去地の  
 兄弟ありとと法をいふ郷人をも  
 是て其教のそとあせり小果あり  
 其及を年々上化せりそなり

蚕獅子此居起入まの事

蚕掃まより七八日め以素と喰止と魚おし白く頭ゆくはるを獅子此  
 居体とより一團ふよりそは時早く居裏と紅碧てあり一細竹の時小居く  
 紅碧んと思ひ赤日此兼素喰まふ赤のそと子揃のそりぬれ此ゆる  
 蚕の上小居くより垂小素の切粉とより掛登り結る付と蚕皆上小素に  
 這上ふなり二夜素と喰せくおれどく居裏紅碧へ一は時小赤小公豆の  
 縁通小居くる蚕は中不並今也中通小赤一と今夜と細小蚕又今もそ  
 柳枝上小赤一は下一は下柳小育一は上柳小上赤一は是も柳の上ト  
 ちく湯氣加減遠ふ少さう紗のどく取替くまれば蚕一週小能掛ふなり細  
 蚕獅子此体と見へ素と一日ふ七八夜より掛登りそあそ人座り  
 中五中い紗のどくまら時蚕素此下小眠居く素と喰妙そとも是小掛ま

素と食切らざる内は貴くはくろり掛くべしは素素不足なり時と蚕を掛  
 おけりてかくするら小先は眠り一蚕は上なる皮と脱物是と夜と ぬぐと さそふ  
 夜と眠り素のふ起り上る是とめま は 起り 一 蚕 見 い ま ふ 素 と ろ 止  
 だりけ時大方運る蚕ありとそは貴素とゆり掛きだ先ふ起り一蚕  
 素喰ふ頃運れ蚕とぬ居眠ふならと待兼素と止る先ふ起り一蚕式之  
 後と素素成喰ひ肝心の喰盛の頃運れ蚕のおふ食止むふ素ふ成たれふ  
 痛ひ一は皮の起備皆止れ素のる遠ひより蚕ふ大小素多しれ病ひ  
 出るむて大切の事ありけ時ある團ふく蚕網とる物とけりふよりけ網の敷  
 けは程用意して蚕の大サ小見合後程目わんと用ひけ網のを入方へ蚕色  
 半眠り一頃蚕の上へ因と垂れ素の糸と網の目と浅ぬ程お掛あみのふふ  
 ゆりり垂る一羽のこくとをねを眠り一蚕とりふすを長眠する

蚕網の圖



若れ蚕と網の目成滞り上なる素に  
 たり素と喰ふけ時網の目方と持  
 上より一若れ蚕成外の窓へ  
 素うけく素と喰むべし下小ゆり  
 眠蚕とお暖かりるれ上へ起り上る  
 揺ふま一羽のこくとする時おそれ  
 蚕もふれ蚕も一個ふ能掛く  
 是秘傳又網る丸團と素素のこれ  
 茶に下へ眠り一蚕ふれ上へ  
 素素とゆり止先何れ窓おそよの  
 蚕のふふ素の葉なりはふか足合ふ

松ぞぶ葉  
と並神子  
眠の蚕採  
むる圖



蚕園のゆく是と標に美と蚕を  
未眠をゆれ髪を拾ひて又眠  
蚕のゆくはあけ蚕を拾ひて夜と  
眠を起しと良し一往起抄と見  
て素と蚕を又標に拾ひ  
時と蚕の救を又同日拾ひ  
拾ひて一お糸と付むり  
日夜の居記をよほど免角一  
お抄お糸と付べ一蚕初の  
卵は居記より一蚕の中園を  
眠記居記と蚕の居記と蚕の網と

りて抄す時をの眠を悉く往抄ひ取扱ひ小糸を乃の良書抄るべ一半生は分  
為細く糸はより一糸細く糸はより一糸細く糸はより一糸細く糸はより一糸細く糸はより  
大より糸一糸正味をくま

蚕採立松糸巻風と標小半

蚕採立松糸巻風と標小半  
破風ふ大減窓とあけ戸の窓戸自由ふと一取く小風ぬと此穴をぬ垂て  
雲のかよいと見時く戸と一此か減窓と半半一有りえらる蚕はる所とぬむ  
弦中がり戸とあけ蚕の居る前と開くから糸おと一ををれより風色り入糸よ  
まへ一別して幼細の材板の間ありと事ひ小半甚悪し板の温りの入糸よ  
障り居るにかびかどお糸を半あり蓮松の物ありとぬべ





家内湯氣加減の事  
 蚕出るば常ふ我家此時氣と考へ  
 我身の時服給又の果物也とよれ  
 行ふとて川小風吹て冷ことあり  
 戸外りとさすべし南風吹て暖  
 二三方此戸と扉と大暑暑しや  
 ありは方皆扉と窓を閉めて  
 涼し風も入るべし初ては蚕  
 物時長は春八十八夜はくま山  
 におり雪もゆき又蚕熱時分  
 と六月中のあはれり夏氣ふ

子掛里人の夜ねも一と遠く  
 倉一夏の順氣成考へ我家の  
 陽守と能おほえき育まぐ  
 家此内の寒暖を振ふと陽氣  
 成西るせりつり又存ふ戸と  
 さ次をうんく子前の戸とさす  
 危うに余のふ戸とぬると見て  
 子おれ戸と窓だぐに陽氣と  
 家くみく遠く危く唯子前  
 の陽氣成能考へく加減する  
 行要なり



鷹の居起子入此年  
 蚕應此居起すてみと二月同敷  
 居尻取留へ一素扱へと危丁押  
 切の折中蚕小見合せかあり  
 さらそ是とみ分回方位の隙ふく  
 ごと一其そ木の枝様まど去  
 能行ふしてびくなくふろひ容を  
 危一雨天中蚕此居るにび  
 打とおあまうあり其耐あはれまら  
 ぬと蚕のふふか一宛むくくと  
 始りて扱素と喰とへ一居る

但馬丹波丹後の香楓園



燻して香素と雑食するは毒  
の果起さふと素素の耐起る香  
うふられた物ば前れ下く素と振  
止と網を掛香成拵り下網を  
園と前よの素素志なごあるふ  
ふとふられた香と葉あく拾ひ  
眠り香とふられた所へよあく  
都る花よまぐへ又拾ひ取  
若と香と素と素と若く香  
子に香と過付拵よまぐへ一移す  
一香と起拵り成拵りく香成

香楓園一は州を休め素せりて  
け休め素古の思かどふある深  
ふれ素の思く其ある香志がく  
合を止りて居る由ふかか  
香味あふ一はふ和素の深  
あふと拵り合は毎一は後此  
休め素皆初の前くかえり  
奇  
香楓園風濕寒風  
あふと拵りく  
うひと拵りく  
素に拵りく



寒氣と後一倒の年  
 ひうー蚕掃豆の頃より暮れ早起  
 時分々々天氣不順しく日毎に風  
 をくしく雪あられなどゆりて法を  
 蚕過す消へ換せしるあり其時あり  
 團ふ玉物方その人育て兼て八巻  
 けりの紙帳と用ゑつゝ一巻より  
 是成けりて中ふ柳を立敷る家内  
 の人け中ふ寝て暖み又かゝり  
 炭火など入さば紙帳とほり  
 おびくかづ風を入さやめぬは



糸の居起子の年  
 二月毎に糸尻  
 取之蚕為くま  
 素と蚕にん合せ  
 か、あゝく梅喰ま  
 け耐え冬暖のか減大半  
 たりを命沖めさうに素素  
 ゆり素おふるト  
 糸と 糸体と風湿よけて素素よ  
 暑氣お火たかふせを障子



内内

戸無り風の出入程く加減と  
 或る家内無く火を焼  
 多秘術を洗う一育る  
 小庭の蚕を式歩方もかく  
 不世せし衣業は山下垂うて  
 糸いぬく言垂るうは人の考ふ  
 智ぬと作してそのまに  
 利徳と作しとも是平生  
 善蚕は道小公と妻一ふ  
 ようか功名の出来しけり  
 但し平生は炭火熱しとけり

東流  
 花畑の  
 圃



蚕盛の時分霖雨と清る例の半

或年蚕起の時分より庭の記まで日毎小大雨降はれ時よ冷風をげし  
 法園蚕たはふつふ一幸あり其時或里小善蚕功者の人ありて家内三四  
 火を焼と蚕のみ前能行小湯守成身し一干変万化して善いふ小ぬ  
 渥小痛まは其村を善の上作せう後小ば子夜を中久皆感にけるとうや

日暑氣成防ぎ一例の半

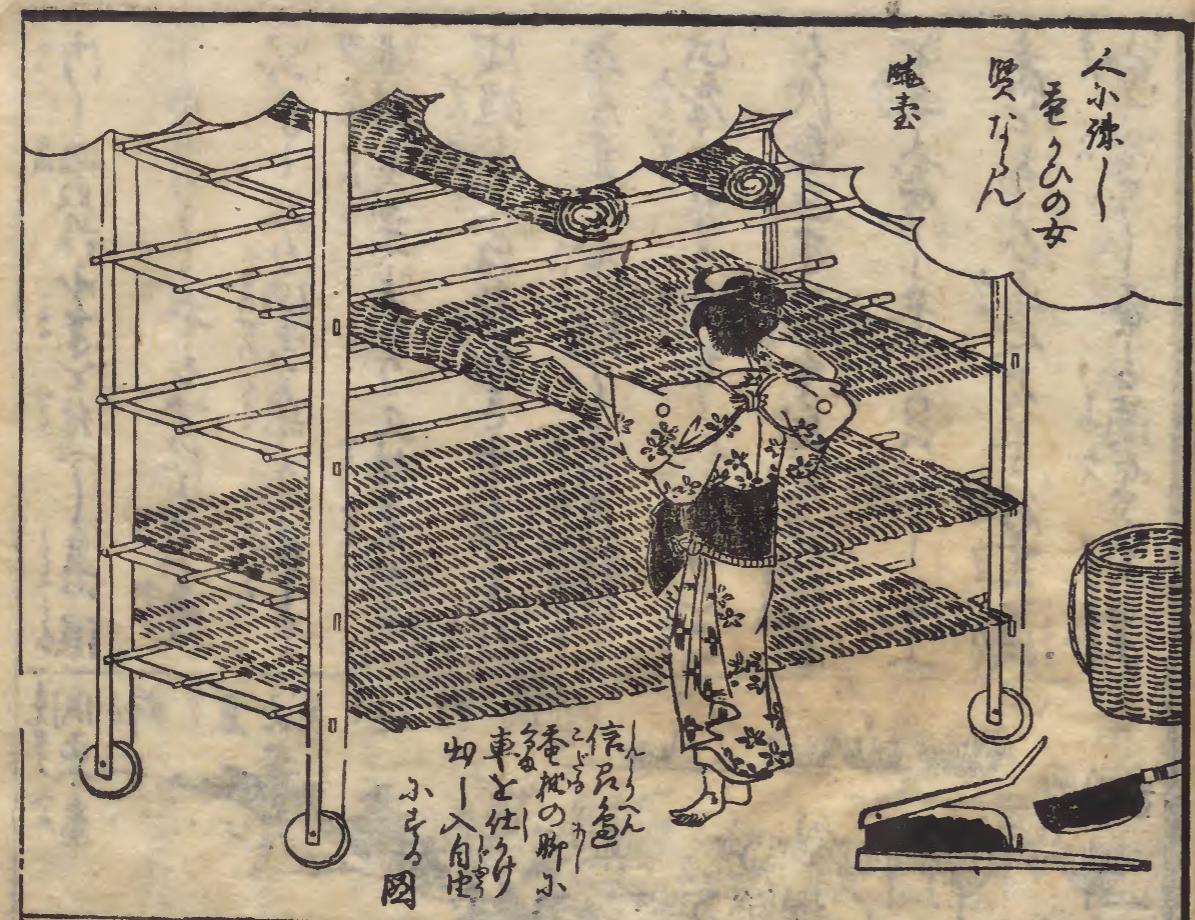
あるり蚕を前より村外暑氣はく南風少くわあさ一六園蚕大不  
 痛く一幸あり或取の老人つるのくかこれ人けるがは暑と格別なぐれと  
 小もあるゆりや心業とめぐりし大戸は小庭葉をか一外より内へ風と  
 入るしふは人の蚕とわしと暑ふつるぬす上作せしやまう

又或年庭起りより日若れとからし一々人も身を持ある程のてありし

久彼座其也異と  
 凌一樹と名ひの葉と  
 大園扇七八枚振ると  
 りて毎日家内蚕柵の  
 回とあそびと一と  
 蚕おも痛ぢん上作  
 ちりけ人志うれんも  
 近心と人とあは仕  
 分と教るる何れも上地  
 せーとあつりやけし  
 平生の兵へさすん



桑の葉  
 おとら  
 園



人小殊一  
 老くの女  
 賢なりん  
 睡去

信足色  
 蚕柵の脚小  
 車と仕所  
 切一入自地  
 小とら  
 園

庭の居起を入と此車  
 蚕を此眠前よけは桑と波山  
 小あえ石の蚕桑にまされぬ招  
 紀と一は時うの桑波寄く不  
 けひ厚くわえ食と一初  
 掃立の時分とたらひ陽きもは  
 の葉一掃別異とせとるは田方  
 此戸と界あが一風と入行能  
 加減と一係蚕の居る所を  
 くらりたる糸ふし雲此のふ  
 成るくひりまど一又夕日乃

片一込ぬれ水と付べし果濕  
 小あつりし蚕をすれとよ病ひ  
 づふとつりばさ染く喰を  
 進付素素とあり又休業せ見  
 ば過分なぬあかさ中うあ一救  
 庵ん業と喰ひべし一病眠起  
 ば産斗なり細かど掛ふも及  
 なる蚕をす記よは急な休業  
 とよ小庵一是より別して上  
 業と急ひあへんが社業と決  
 小喰せし蚕と藪厚く糸正味

東國の送葉



多し一は時別して急しを素派あ之後程厚くふり掛る  
 又及小秘半あり急く大異なり小蚕平生業の青糸にまおはばしりも未と  
 糸比よと体と居る程不羨髪を振うけく喰をべし糸のどく人間と身と持  
 うぬる程不ほめれははらうへこの外蚕もよくぬま由もよくぬるなり  
 一は時素不足をれを藪もよく皮薄く糸正味すかへや急る一産の記  
 一の蚕糞をまよはたふまて小凡業と式十後より正三日後喰ふとよ糸  
 志り一産の加減業の厚薄をておへる迷あふ  
 法玉しく藪成作らばあは事  
 紐蚕幼らば糞れ水晶のてく透る格ふなり藪を作らんや業深る  
 所とたりの歩む是と  
 東國あつりし蚕をすれとよ病ひ  
 中国ていそぐとよ



奥州流  
養蚕と  
まぶし入れ  
満はら



奥州流  
養蚕と  
まぶし入れ

枝を園のどくたむの是成  
 柳に間ふるべ蚕さけ間ふ  
 蚕を入おのまけおのけり  
 ちもゆりけ又新よ蚕を  
 たるをかへとりあつ暖か  
 祈へよけるべ蚕満をへる  
 たりまより三日めふり  
 とそ薪を引か風と入蘭の  
 湿りと乾まかり  
 又江戸と園はどく二階裏  
 より繩を二筋でけりは繩ふ

何の先荒増を法園ふり  
 奥州流を並の縁をむす  
 立く中ふ力竹を角透い小  
 結ひ片葉三日月宛りて園  
 此でく三角ふ折をとり  
 の中ふ立りくは中ふを  
 蚕をなうくと配り入まか  
 火も枝を暖まる祈へよ  
 蘭を洗りけはとまびく  
 又間休もいふ  
 丹波丹後徳るをこま  
 糸勤の





丹波丹波  
但馬  
薪やまの  
園



丹波丹波  
但馬  
薪やまの  
園

姉のたけの管は通し一蚕  
 の柵を園乃てくけり下を  
 素喰をたけ柵の蔭を柵本  
 もふ上テ下ケ自中ふまてし  
 又也さう一時的柵ふ養とあ  
 園れてく葉苞小蚕成入也  
 是と柵の局へ立たり之蔭を  
 けりけり  
 又園東色も幅三尺余長サ  
 をる柵の竹此目柵乃中ふ  
 蔭を葉をくた蚕成知ふ

又也さう一時的柵ふ養とあ  
 の枝を入也是小蚕成入也と作  
 られ其外信州小園筋也これ  
 流儀ありて法道を極く差別  
 あり其園く小法く寫こと用ひ  
 度一又もがれ一蚕を素と食  
 ざる物に痛あり一法を子おに  
 あらうの園は所へ入なり又也  
 其種を養れ一蚕は成りまふ小  
 うを素によりける法を養く  
 入なり一蚕もいふ二日めおはせ



江別流  
菘苞小  
蚕入  
子白  
解  
園



江別流  
蚕旭  
珠  
自主物  
我少

江別流  
けり  
園

言名此本の分りとりよその人乃  
 言れ本にのほりてなぞおん  
 とするとん今終ふなり一付  
 産るを我返さぬくやりのふ  
 何之の之種をそけりも言れ  
 所ふより居る種を何ともいそ  
 で終ふなりをのりよるやれ  
 ぬ事するとも波を名のみふ  
 されを言れあよ居るしん種い  
 める先を足りかれば已も珠  
 ふ危しや之を我りよるかし

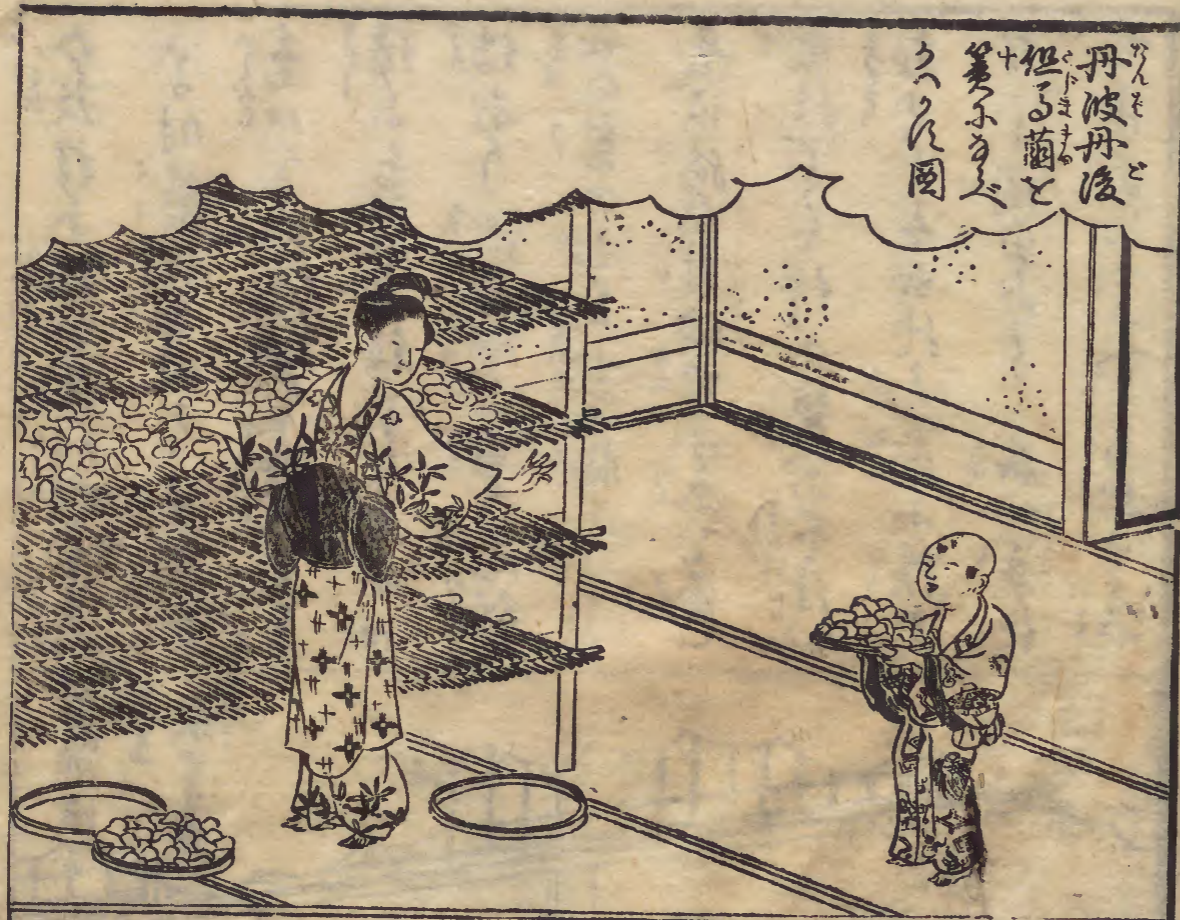
ちり取置ふ金風ふ道一  
 七八日毎日あふ干は事仲乃  
 頻成りあむる花まき一又  
 毎天なる早く炭火とわう  
 焙燥ふ入中此種といふ物  
 折ふと一粗な初蚕此掃を  
 より千辛万苦して術蘭帳の  
 頃ふより得く手入の蒸忽お  
 来るを今と此動忽水の泡と  
 消へ美右の採夫成一能く  
 知れぬさかりはさく料ま

奥列流  
まづこれ蘭と  
まづこれ蘭と



終るなりて公ゆか一財ふと  
 さらけおきとひい〜と  
 は半兼好が等どさみふ裁く  
 人の柱おほそのりねど理の迎く  
 せ〜と〜と後通ふ〜と〜と  
 名味深生種をまふ書市作〜と  
 大方北半紅の池ひ〜と過ち  
 出島〜りの蚕業も初めは終り  
 豆取之切ふ書音〜と〜と子社  
 得〜り〜と〜と〜と〜と  
 道有〜と〜と〜と〜と〜と

丹波丹後  
但ふ蘭と  
まづこれ蘭と  
まづこれ蘭と



練取板は徳の半  
 蚕取小蘭と必共六日〜り  
 ち糸取取〜と〜と〜と  
 ち〜と〜と〜と〜と〜と  
 六寸四方位の木此養小園乃  
 七〜と〜と〜と〜と〜と  
 七八寸四方の練車小〜と〜と  
 久〜と〜と〜と〜と〜と  
 奥列直は練取女のた此方へ  
 園の〜と〜と〜と〜と〜と  
 養〜と〜と〜と〜と〜と

む皮むく不ふ端たん入いま加か減げんよく煮に  
 する付つき着し成じそののくくもませ  
 糸いとををああららぐぐりり死し半はん分ぶん斗と  
 傳つたふふ並な能のささ程ほどりり是こ小こは  
 傳つたありあり端たんのの端たん馬まのの尾お成じの  
 女おんなのの髪かみのの毛けをを少ちとと端たんあ  
 是こ法は法はひひ付つはは穴あな小こ糸いととと区く  
 圓円はは了了くく竹たけのの籠かご小こ糸いと付つけの  
 志しままくく々々女めれれよよ向むかふふ横よこ小  
 竹たけ一一圓圓ののああららくく衣えのの毛けに  
 てて手て前まへののくくくくちち糸いととと糸いと



は細ちかくくなな心こころ度ほど毎まい小こ糸いと一一穴あな  
 取と添とくくむむらられれ指さまま巻ま付つけの  
 竹たけりり又またまま白しろ毛け解とけけりりににええこれこれい  
 糸いとららちち上うりり一一又また変かええられられ糸いと  
 はは如ごとほほ是こ小こ加か減げんああらら一一  
 又また一一方ほう小こ籠かご北きた右みぎのの方ほう一一車くるま二に  
 仕しりりけけ是こ小こ法は法はりり糸いとととりりて  
 早はやくく海うみとと付つけるる法はああらら圓圓小  
 ああららわわんん糸いと取とはは法は法は流ながるるままりり  
 寫うつししををりりああらら一一  
 又また糸いと代しろああらら紅べに線せん車くるまこれこれも



園所ふよりてあそ  
 仕仕ありとよども  
 まげ一方と同小程  
 りれ又つて成をぬ  
 尚仕能程又園くの  
 意りあそば甚所  
 小志こがひアア一と  
 成りちもなう一様て  
 今一方とあげく園  
 小あつりれ成をぬ  
 小志だまふ累を



奥州流  
 車と仕  
 糸をる園

蚕此長魚糸痛  
 見松の糸  
 蚕掃立より七八月め  
 小獅子此より糸よみ  
 とよと知念一  
 月六日め位小獅子此  
 黄糸よみと中とん  
 月12日め位小獅子の黄  
 糸よみと下と志也  
 獅子体の中小白糸よ  
 あつてあそびる蚕育か



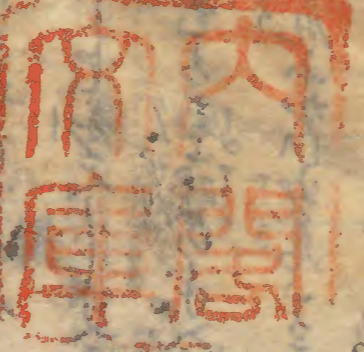
標車少く  
 糸をる園

虎の居記ふあしく  
成りし是を冷する  
蚕又と販する春  
あふ  
柳子れ居屍る終ふ  
死する蚕あふ是を  
隣子れ透るより温  
風ふあふ又と毒ふ  
あふ  
當りし蚕と志し  
居れ居屍る乃眼記  
小頭ゆと蚕多出来



素喰切熱くも厚胸又と粘りと悪くもあふ  
たる蚕多くあふは暑きもあふ  
是も折ふよりてもこれ暑きあり是も暑暖の手入あふ  
あふりし蚕ふ多くあふ又居屍ふかびあふる蚕ふ多くあふりし  
登し又蚕窓の厚くもあふりし是も厚胸あふりし  
病氣の下地あふ風雨暑温あふ  
又雷雨あふりしあふりしは暑きもあふりし蚕れあふりし  
是よりあふりし病とあふりし又居屍ふかびあふりし素喰切熱くもあふりし  
と幼胸の耐ふ暖くもあふりし蚕又の焼火の火もあふりし  
よる時夜とあふりし得る蚕あり是も素喰切熱くもあふりし  
てもあふりしあふりし蚕の脊もあふりし病あり病ありし

烟カふカをカ吸カ氣カ能カとカ年カをカ梅カひカはカくカはカ不カ吸カるカとカくカをカ烟カ換カどカ多カく  
 是カのカ生カ壁カのカ濕カふカ者カ一カをカ志カふカ一カ濕カ除カふカ火カとカ燒カもカ宜カしカけカ外カ  
 養カ此カ病カひカ多カしカ也カ之カもカ皆カ知カ烟カよりカ子カ入カあカとカ死カ又カはカ種カ元カのカ惡カとカふ  
 上カ所カへカ一カ所カ種カ元カをカ吟カ味カしカ法カ分カ能カとカ種カ瓜カ求カめカ烟カ方カ子カ枝カのカおカこ  
 ねカふカまカとカ半カ中カ一カ後カのカ患カをカ茶カよカありカをカ知カれカんカ



養蚕記録中巻 廿八

養蚕中ノ廿八

